

第6回 計測制御検討会 議事録

1. 日時 平成17年3月24日(木) 13:30~15:20

2. 場所 日本電気協会 4階 D会議室

3. 出席者(敬称略,五十音順)

出席委員: 國頭主査(東京電力), 今井副主査(関西電力), 内海(三菱重工業), 江島(九州電力), 清治(日立製作所), 田中(東京電力), 谷(三菱電機), 永野(富士電機システムズ), 長橋(日本原子力発電), 山岸(北海道電力), 渡辺(三菱重工業), 渡辺(東芝), 渡辺(四国電力)
(13名)

代理出席委員: 荒芝(中国電力・三村代理), 木南(北陸電力・新屋代理), 菅原(東北電力・鶴田代理), 松田(電源開発・石合代理), 山田(東北電力・鶴田代理) (5名)

欠席委員: 小山(日立製作所), 坂本(中部電力), 鈴木(東芝) (3名)

常時参加者: 上山(関西電力), 宇田川(東芝), 北村(三菱電機), 山内(東京電力)

事務局: 平田

4. 配布資料

資料 No.6-1 第5回 計測制御検討会 議事録(案)

資料 No.6-2 JEAG4611改訂作業に関連した委託及び検討項目について(案)

資料 No.6-3 計測制御設備に関する国内指針体系の整理とBWRでの最新設計を踏まえた指針整備に関する調査 委託調査仕様書(案)

資料 No.6-4 JEAG4611改訂作業の進め方(案)

資料 No.6-5 JEAG4609-1999及びJEAG4611-1991の改定作業並びに耐環境性指針の制定要否検討状況について

資料 No.6-6 計測制御検討会 検討スケジュール

資料 No.6-7 「JEAG4617 中央制御室の計算機化されたヒューマンマシンインタフェースの開発及び設計に関する指針」制定案 審議の経緯について

資料 No.6-8 「規格の整備が望まれる分野」の検討について

資料 No.6-9 JEAG4609 及び JEAG4611 に関する海外規制体系の調査対象について(案)

参考資料 - 1 第8回 安全設計分科会 議事録(案)

参考資料 - 2 各分科会 規格改廃要否の検討及び平成16年度活動実績, 平成17年度活動計画

参考資料 - 3 安全設計分科会 計測制御検討会 委員名簿(案)

5. 議事

(1) 前回議事録確認

事務局より、資料No.6-1に基づき、第5回 計測制御検討会 議事録(案)(事前に配布しコメントを反映済み)の説明があり、原案どおり了承された。

(2) 主査の選任と副主査の指名について

分科会規約第13条第3項により、検討会主査候補者として東京電力 國頭委員の自薦あり、他に主査候補の推薦がないことを確認した後、挙手による採決を行った結果、賛成18名、反対0名で國頭委員が主査に選任された。また、分科会規約第13条第2項により、國頭主査から検討会副主査として関西電力 今井委員の指名があった。

(3) 規格案の審議報告について

事務局より、資料No.6-7に基づき、「JEAG4617 中央制御室の計算機化されたヒューマンマシンインタフェースの開発及び設計に関する指針」制定案が、原子力規格委員会の書面投票で可決され4月7日までの公衆審査に入っているなど、規格案の審議経緯について説明があった。

(4) 計測制御検討会の活動計画について

國頭主査より、資料No.6-5及びNo.6-6に基づき、3月14日に開催した第8回安全設計分科会で報告した資料をもとに、本検討会における活動方針及びスケジュールについて説明があった。

これに関して、JEAG4611については、前回の改定以降の技術基準・工事認可など各社の対応について項目を抽出して、検討を行うべきとの意見がだされた。これに対して、資料No.6-6記載のように、「発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する安全指針」との整合性確認、安全審査などの内容の整理を行うことを予定しているとの回答がなされた。

(5) JEAG4611「安全機能を有する計測制御装置の設計指針」など改定案の検討項目について

田中委員より、資料No.6-2、No.6-3及びNo.6-9に基づき、海外と国内規格の調査・分析の実施、規格体系化の調査を行い、それをもとに「JEAG4609 安全保護系へのデジタル計算機の適用に関する指針」改定案、「JEAG4611 安全機能を有する計測制御装置の設計指針」改定案及び「安全系電気・計装品の耐環境規格」制定の要否について検討していくことの説明があった。

これに関して、只今、技術基準の改正が議論されているが、原子力安全・保安院より提示されている問題の論点を整理して、戦略的に検討を進めるべきとの意見が出された。これに対して、上記の調査内容を勘案し、検討の範囲などを考慮し効率的に改定・制定案を検討して行きたいとの回答がなされた。また、PWRプラントについても資料No.6-3と同様な資料を作成すること及び資料No.6-3については、内容を精査し、コメントがあれば、田中委員に連絡をすることとした。

(6) JEAG4611他改定作業の進め方(案)について

田中委員より、資料No.6-4に基づき、海外規格類と国内の規制要求事項の調査など JEAG4611他改定作業の進め方について説明があった。この中で、「JEAG4612 安全機能を有する電気・

機械装置の重要度分類指針」との整合性確認の調査については、平成 15 年度に行われた電気事業法施行規則の一部改正時に、設置許可・技術基準・工事認可を考慮した重要度分類について検討を実施した資料があるので、今後の改定作業に活用して行きたいとの意見がだされた。

また現在、各社に作業を依頼している安全審査指針の調査については、次回の幹事会で検討をすべく期限までの回答をすることの要望があった。

(7) 「規格の整備が望まれる分野」の検討について

國頭主査より、資料 No.6-8 及び参考資料 1 に基づき、第 6 回原子力関連学協会協議会で原子力安全・保安院の出席者より、「デジタル安全保護系 (IAEA 安全基準との整合性)」及び「制御室の居住性 (米国知見の反映)」について学協会で規格を整備することが望まれている分野として挙げられて原子力規格委員会で検討することになったこと及び第 8 回安全設計分科会で原子力安全・保安院 高坂委員より同様な規格整備の要望が本分科会にあったことの説明があった。安全設計分科会では、「デジタル安全保護系」について本検討会にて検討すること及び「制御室の居住性」については、分科会幹事と各検討会主査にて規格の策定範囲とその体制について検討することとなったことの報告があった。

6. その他

- (1) 省令第 62 号の改正については、その動向を注視し規格案の検討を進めていくこととした。
- (2) 本検討会に關係する日本原子力技術協会の業務については、早急に、主体的にかつ検討会の事情を十分勘案して業務を進めるよう要望を行なう。
- (3) 次回検討会の開催は、改定作業の進捗状況により別途調整することとした。

以上